

岩手県総合計画審議会  
令和3年度第5回県民の幸福感に関する分析部会

(開催日時) 令和3年10月29日(金) 9:30~11:30

(開催場所) 岩手県水産会館 大会議室

1 開 会

2 議 題

(1) 令和3年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート案について

(2) 令和4年「県の政策に関する県民意識調査(補足調査)」について

(3) その他

3 閉 会

出席委員等

吉野英岐部会長、若菜千穂副部会長、竹村祥子委員、谷藤邦基委員、

Tee Kian Heng (ティー・キャンヘーン) 委員、山田佳奈委員、和川央委員

欠席委員等

広井良典オブザーバー

1 開 会

**○高橋政策企画課評価課長** それでは、御案内の時間になりましたので、ただいまから第5回県民の幸福感に関する分析部会を開催いたします。

私は、事務局を担当しております政策企画課の高橋でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、広井アドバイザーが御欠席となっておりますが、運営要領第6条第2項に基づきまして、委員の半数以上に御出席をいただいておりますので、会議が成立していることを御報告いたします。

なお、本日は竹村委員、若菜委員にはリモートにより御出席いただいております。

それでは、開会に当たりまして、政策企画部技術参事兼政策企画課総括課長の照井より御挨拶申し上げます。

**○照井政策企画課総括課長** 皆様、おはようございます。本日は、お忙しい中、朝早くからお集まりいただきましてありがとうございます。

今年度におかれましては、県民の幸福感の変動要因に係る分析に加えまして、新たに新型コロナウイルス感染症の影響につきましても分析いただくなど、昨年度より複雑、しかも困難な分析を行っていただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、5回目ということで、これまでの4回にわたる審議を経て作成いたしました年次レポート案につきまして、取りまとめを行う予定としておりますので、御審議のほどよろしくお願ひしたいと思います。

また、本日御確認いただいた内容をもって年次レポートを確定させていただきます。

その内容を11月12日に開催されます総合計画審議会において吉野部会長より御報告いただく予定となっております。また、同時並行で、当部会で御審議いただきました分野別の実感等を盛り込んだ政策評価レポートの作成も進めさせていただいております。その内容について、本日開催いたします政策評価専門委員会で御審議いただく予定となっております。

また、次年度に向けまして、来年1月から実施します県民意識調査（補足調査）の見直しにつきましても御意見をいただく予定としてございます。一昨年、今年と幸福に関する分析を行う中で、委員の皆様には様々感じていることであろうかと思っておりますので、今後のよりよい分析に向けまして忌憚のない御意見を頂戴できればと考えておりますので、よろしく申し上げます。なお、所用により私は途中で退席させていただきますので、御容赦いただきますようお願い申し上げます。

簡単でございますが、挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**○高橋政策企画課評価課長** それでは、運営要領第4条第4項の規定によりまして、部会の議長は部会長が務めるということになっておりますので、以降の進行につきましては部会長よりようお願いいたします。

## 2 議 題

### (1) 令和3年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート案について

**○吉野英岐部会長** それでは、会議を始めたいと思います。今画面に映っているとおり、会場は1台のカメラで全体を映しています。私が今この席にいます。そして、ちょっと遠くて顔が判別しづらいかもしれませんが、画面右側にいらっしゃるのが谷藤委員です。それから、その奥にティー委員がいます。それから、反対側に行きまして、手前が山田委員です。それから、奥が和川委員です。それから、その向こう側にいらっしゃるのが事務局の皆様でして、事務局の方からかなり説明がありますので、奥の方の人がしゃべっていると思ってください。口元まで全然見えないかもしれませんが、音声の方はきちんと届くように設定してもらっていますので、大丈夫かと思います。こういう状況で会議を進めていきますので、撮影の方もそうになっていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、お手元に議事資料あると思いますので、それに沿っていきます。まず、議題1の令和3年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート案ということですがけれども、ここは前回途中経過の報告がありました幸福について考えるワークショップの結果が取りまとめられたと伺っております。事務局より、まずそのことについて御説明をお願いしたいと思います。

**○池田政策企画課特命課長** 政策企画課、池田です。私の方から御説明をさせていただきたいと思います。それでは、座って説明させていただきます。

それでは、資料1を御覧ください。資料1につきましては、前部会において、幸福について考えるワークショップの第4回までの内容について御報告をさせていただいたところでございます。今回、第5回から7回の分についても取りまとめりましたので、全体として整理したものを今回御提示をさせていただくということになります。ワークショップで

出された御意見ということで、今回「地域社会とのつながり」の方ですと、第5回目なので6ページの辺りまでということになるのですけれども、第1回目から第4回目の中でもやはり地域行事の中止、縮小といった御意見ですとか、あとは趣味などのつながりが低下しているというお話があったのですけれども、今回の内容を見てみても、そもそも来ない人は来ないのだという意見もあったりとか、新しく来た人とのコンタクトがなかなかないとか、地域行事の中止、縮小はやっぱり続いていますと。あと仕事、家庭については、なかなか忙しいですとか、子育て期間中は人と会う機会が減りましたというような御意見等をいただいております。前回はそうですが、新型コロナウイルス感染症関係の内容を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響でいろいろなつながりというものが減ってきているという実感を頂戴しているところでございます。

続きまして、「必要な収入や所得」ということで、こちらの方につきましては前回では株価の話がございましたり、残業代が増えたということ、実感があまりないという人とか、節約しているなど、人によっては収入が変わっていないけれども、むしろ子供に係る支出が増えたという御意見もあったり、会社の経費が下がって社員に分配したといったような様々な御意見を頂戴しておりました。

今回第5回目以降ということで、11ページ以降になるのですけれども、こちらにつきましては、やはり支出が減ったというような回答が非常に多く見られているのかなというふうに思います。あとは、個人事業主さんのところでは、首都圏対応だったのが地元対応に変わったというような御意見がございまして。あとは、やはり給付金のお話が出てきています。おおむねのところとしては、そういったような御意見となっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響としては、あまり変わらないという人が割と多かったということです。ただ、リストラという言葉も出てきたりしていますので、やはりこのような影響が出てきているものと思っています。このほか、体験型事業の参加が減りましたということもありますので、こういったところが実感に出てきているのかなと考えているところでございます。

ワークショップの内容につきましては以上でございます。

**○吉野英岐部会長** 御説明ありがとうございます。

それでは、委員の皆様から御質問等あればいただきたいと思います。いかがでしょうか。

では、私の方からちょっと簡単な事実確認ですが、これは7回全て今年度終了しましたけれども、大体1回当たりの時間はどのぐらいかかっているのかということと、どういう場所でなされているか、もし分かれば教えていただきたいのですが、分かる方いらっしゃいますでしょうか。

**○廣田政策企画課主任** 政策企画課の廣田です。ワークショップ担当しています。お願いします。まず、1回当たりの時間なのですけれども、おおむね2時間ちょっとくらいです。約1時間程度を参加者の方々が幸福カルテを使って幸福を考える機会に、あと県民意識調査の質問項目に近い内容を幸福カルテの方でも聞いていますので、その中身を御回答いただいたり、御議論いただいた上で今回「地域社会とのつながり」と「必要な収入や所得」の分野別実感の県民意識調査の状況を皆さんにお知らせして、残りの時間でその具体的な

要因を議論していただくという形になっています。

7回の開催地域なのですが、県南から県北、県央、沿岸と書いているのですが、第1回と第2回の県南となっているのが一関市の開催になっております。第3回の県北が一戸町、第4回の県央が盛岡市、7月、第5回の県南が一関市、あとは第6回の沿岸が普代村、第7回が陸前高田市となっております。対象としております団体は、例えば婚活のイベントの際に一緒にワークショップやっていたり、地域のまちづくりの団体、あとは陸前高田市ですと、移住・定住関係の交流会の参加者等となっております。

以上で説明を終わります。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

そのほかに御質問等ありますか。

では、谷藤委員、お願いします。

**○谷藤邦基委員** 前に出したペーパーにも書いたのですが、ちょっと気になっているところで、事務局で分かるかどうか分からないのですが、6ページのところです。左側のところの上から4つ目のポツで、「地域が縦割りになっている」というコメントあります。ずっとこれ気になっていて、どういう意味なのだろうと。組織の縦割りなら分かるのだけれども、地域の縦割りというのはどういうことなのかなというのがずっと気になっているのですが、どなたかお分かりになる方がいれば。ちょっと今首を傾げていました。分からないですか、やっぱり。書いた人がどう思って書いたかというのは。ただ、ここに載っていると気になるのですよね。

**○吉野英岐部会長** 若菜委員、40代女性と書いてありますけれども、分かりますか。

**○若菜千穂副部会長** この人がどういう意図で言ったかはちょっと、この日参加していないので、分からないのですが、この縦割りになったというのを想像すると、地域の組織も何とか部、何とか部みたいな、役員さんも班長さんとか、子供会、婦人会とかという組織で動いているので、意外とその組織同士の横のつながりはないのですよね。特にコロナで、そういうざっくばらんな飲み会とかがなくなれば、もう本当に子供会にしか関わらないみたいな。子供会でできないことをほかの人に相談したいのだけれども、誰に相談したらいいのか分からないという、そういうことが起こりがちになっているというのはあるので、縦割りという言葉から想像すると多分そういう状況になっているのかなという気はします。

**○吉野英岐部会長** という見立てですけれども、谷藤委員、いかがですか。

**○谷藤邦基委員** そういうことなら何となく分からないこともない。例えば婦人部というのは町内会ごとにあるけれども、町内会ごとに全然交流がなくて、それぞれの婦人部が孤立した活動しかしていないというようなイメージであれば、そういうことなのかなとも思いますが。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。  
では、和川委員、お願いします。

○和川央委員 和川です。おはようございます。非常にいいデータだなと思って拝見をしておりました。統計的な、いわゆる定量的な分析だけではなくて、こういった生の声を把握できるというのは非常にいい資料だなと思います。資料自体はこれで差し支えないのですけれども、今後分析の可能性ということでお伺いするのですけれども、属性はどこまで把握をされているのか。例えば職業とか、県民意識調査のフェイスまで把握しているのか、あるいはこの資料に掲載している情報までなのか。今後分析の可能性を考えたときに、事務局としてどこまで属性を把握されているのか教えていただければと思います。

○吉野英岐部会長 それでは、事務局お願いします。

○廣田政策企画課主任 属性なのですけれども、参加された性別と年代のみを把握しております、報告書上は。あとは、参加される団体というのも把握してまして、例えば先ほど地域が縦割りになっているという第5回目の意見をいただいた一関市の団体なのですけれども、こちらいちのせきニューツーリズム協議会という団体の集まりの方にお伺いしていますので、そこの協議会に入られている方で、そこから先の職業だったりとかは、こちらではちょっと把握していないということが現状です。

○吉野英岐部会長 和川委員、いかがでしょうか。

○和川央委員 分かりました。ありがとうございます。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。そのほか御質問ありますか。

「なし」の声

○吉野英岐部会長 では、特にないようであれば、このようにワークショップを開いて、意見を集めて、それをここに提示していますということで、御了解いただければと思います。7回、大変御苦労さまでございました。コロナでなかなか自由に身動きできない時期に重なっているか、そのちょっと前ぐらいですかね、大変御苦労あったと思いますが、ありがとうございます。

続いては、次の議題に入りたいと思います。続いては、年次レポートそのものについての御説明を事務局よりお願いいたします。

○池田政策企画課特命課長 それでは、私の方から御説明をさせていただきます。

資料2は、お手元の官庁表紙の冊子になってございます。資料2—1の概要版については、ダブルクリップで留めてある資料に入れてございますので、併せて御覧いただければ

と思います。まず、資料2として、レポートの前回からの変更点ということで御説明をさせていただきますと思います。

1つは、おめくりいただきまして目次のところ、今回別冊ということで資料編の方を御用意してございます。基本的には、1番から7番までにつきましては昨年同様となっておりますが、先ほどお話しさせていただきました幸福について考えるワークショップの開催結果、こちらを参考資料8として追加をさせていただきます。

次に、おめくりいただきまして1ページです。県民意識調査、一番下から4行目のところですが、こちらの方は2月に実施と書いていたのですが、県民意識調査は1月から2月にかけて実施ということで、文言の修正をさせていただいているということでございます。

続きまして、28ページを御覧ください。実感が低下した分野ということで、前回まで様々補足調査の自由記載の意見とか、そういったものを少しでも入れ込みたいということで、今回そのような文言を追加してございます。28ページの下から5行目、なお書きのところですけれども、回答項目の「その他」において上記3つの関連が強い要因に関連する記載として、ここの分野については新型コロナウイルス感染症の影響による外出や行動制限等の記載がありましたということで、御紹介をさせていただくような文言を追加させていただいているということでございます。

おめくりいただきまして、30ページ、こちら「地域社会とのつながり」のところにつきましても同様に記載を追加させていただいています。ここのところにつきましては、昔ほど地域間の連携性を感じないとか、近所との交流がなかなかないというようなことの記載を追加させていただいているというものでございます。併せまして、そこから5行下のところなのですけれども、前回こちらのところについては、その地域で過ごした年数が短い方と長い方、それぞれ実感として低下しているということで記載を調整するというようにしておりましたが、御相談させていただいた結果、「その地域で過ごした年数が影響している」ということで今回整理をさせていただいているというものでございます。

続きまして、31ページです。「地域の安全」のところにつきましても、低下の要因に関連する自由記載の御紹介ということで、歩行者の通路が狭いとか、道路の除雪というような記載を追加しているものでございます。

おめくりいただきまして、32ページ下のところです。「歴史・文化への誇り」ということで、こちらについては学んだり知ったりする機会がないと感じていらっしゃる方がいるということを御紹介させていただいております。併せまして、主な回答理由である「その地域で過ごした年数」について、属性で見たところ居住年数が20年以上の方の実感が下がっているということから、「その地域で過ごした年数が長いこと」ということで整理をさせていただきます。

おめくりいただきまして、34ページの一貫して高値、低値で推移している属性において、高値で推移している要因の推測として、ウのところの文言を追加してしまったのですが、資料編の417ページを御覧いただければと思います。この厚い資料の属性別(2)というインデックスがついているところを見ていただければと思うのですが、これは誤りです、すみません、元の形に戻したいという形での訂正の御説明でございます。417ページにおいて、一貫して高値で推移している属性ですので、「感じる・やや感じる」と回答した人の多い理由ということで、会話の頻度、同居の家族が自分にもたらす精神的影響ということ



で、こちらの方につきましては元の記載の方に戻させていただきたいということでございます。失礼いたしました。実感の分析のところにつきましては、今の御説明の内容の変更となりますので、まとめの方も併せた修正をさせていただいております。

次に、46 ページを御覧ください。追加分析のところでは、前回御指摘ございましたとおり、ページ数と表の関係が分かるような記載を追加させていただいているということと、あとは回答する場合と書いていたものについて、回答者ということで文言を統一させていただいているということです。あとは、少し記載も丁寧に修正しているということで、大きなところの変更はないというような形で整理をさせていただきました。

続きまして、資料2-1、概要版の方の御説明をさせていただきたいと思います。別冊の方で御用意してございます。こちらの方につきましては、先ほど来御説明したとおりの修正となっております、3 ページのところ。「地域社会とのつながり」のところの要因として、「ウ その地域で過ごした年数が影響していること」、「歴史・文化への誇り」につきましては、「ウ その地域で過ごした年数が長いこと」ということの修正がなされたということで、4 番については削除をするということです。

次に、5 ページ目です。前回御指摘を受けまして、レポートの概要との整合が図られるような文章に修正すべきだという御意見を賜ったので、その内容に沿って整理をさせていただいた形で、今回御提示をさせていただくというものでございます。特にその分析結果の下のところの記載ぶりのところを修正してございますので、こちらの部分について御意見を頂戴できればと考えているところでございます。

私からの説明は以上です。

**○吉野英岐部会長** 変更点を中心に御説明ありがとうございます。このとおり結構分厚い白い表紙のレポート案、資料2ですね、この文言についての説明が中心でしたけれども、御質問、御意見あれば委員の皆様からお伺いしたいと思います。

では、竹村先生、お願いします。

**○竹村祥子委員** 46 ページの結果の概要というところの赤で直してあるものが 48 表C参照で大丈夫なのですか。46 ではないですね。

**○吉野英岐部会長** 分厚いものの 46 ページに書いてあるのに、表Cは 48 ページにあるということですよ。

**○竹村祥子委員** はい。

**○吉野英岐部会長** 事務局、いかがでしょうか。

**○池田政策企画課特命課長** すみません。ページずれを起こしていました。修正します。その下もですね。以降ページのところがずれてしまっていたので、修正します。

○竹村祥子委員 よろしくお願ひします。

○吉野英岐部会長 御指摘ありがとうございます。C、D、Eのページの番号について、最終的に整合するようによろしくお願ひいたします。

そのほかいかがでしょうか。

では、谷藤委員、お願ひします。

○谷藤邦基委員 実質的な内容については、もう私これで十分だと思ひていて、多分そういうことでは内容は確認という趣旨でいいのですよね。という前提でこれから発言しますので。ここはこうした方がとか、あるいは明らかに誤っていると思われるところが結構あったので、順次言ひていきますので。

まず、目次のところではすけれども、これは間違ひしているとかではなく、こうした方がという話なのですが、追加分析のところ、「新型コロナウイルス感染症の分野への影響」とあるのですけれども、ここは「各分野への影響」とした方が分かりやすいというか、普通の感覚ではそうかなと。ですから、もしそうすると43ページとかもということになるのですが、そこはひとつの方がよろしいのでないかなと。これは、概要版の方にもその場所、相当する部分がありますので、それぞれ直していただくのがいいかなと思ひたというのが1つ。

それから、2ページのところではすけれども、下から8行目か7行目のところではすけれども、「2時点間で実感が上昇・低下した分野について」ということで、「補足調査において当該分野別実感が低下した」としか書ひていないのですけれども、これ「上昇・低下」だと思ひます。「実感が低下・上昇」とひっくり返っているのです、やっぱりこれも「上昇・低下」で、順番はそのとおりにした方がいいかなと。

17ページの表7ではすけれども、ここの性別、男性のところの平成31年のデータ、これ多分3.33だと思ひます。これ差を取ってぴったりとなるのがあるのは分かるのですけれども、端数処理だけで違ひというとなら0.01までしか違ひないはずなのですけれども、ぱっと見でこれ差が0.02違ひているから、だからおかしいなと思ひて調べたら、どうもここは3.33みたいなので、一応確認の上、修正をお願ひいたします。

それから、21ページのところですが、②の分野別実感が上昇した要因の2つ目のポチの3行目、「令和2年調査と今年調査で」と書ひてあるのですけれども、今年の方はやっぱり令和3年と書ひた方がいいと思ひます。読む人がいつ読むか分かりませんので。

それから、本当に細かいことなのですが、29ページ、③のポチの2つ目の2行目の最初の「自由な時間が」というところなのですけれども、かぎ括弧のかぎがゴシックになっていないと。細か過ぎて恐縮ですが。

同様に裏の30ページの分野別実感が低下した要因のところの4つ目のポチのところ、「隣近所との」というところのかぎ括弧もゴシックになっていないのです。

34ページの表22、表題が「家族関係」の実感において低値で推移しているとありますが、これ高値ですよね。

○吉野英岐部会長 4.何とかですね。数字を見る限り、そのようです。



○谷藤邦基委員 それから、36 ページのところ、というよりも(3)の「仕事のやりがい」の実感が35 ページにあって、①、分野別実感の概況が分かるのですけれども、②がない。一貫して高値または低値というところのコメントがない。該当がない場合でもコメントはつけているので、項目としては入れる必要がある。

同じページの下の方ですけれども、②の一貫して高値または低値でのところの2つ目のポチの最初の項目の「緑の量が」というところのかぎ括弧、これがゴシックになっていない。

それから、これ本当にどうでもいいような感じなのですけれども、38 ページの5の2の1の実感が上昇した分野の次の(1)のところのですけれども、ここのスペースが他とちょっと違うのですよね。半角分ぐらい何かスペースが足りない。

○吉野英岐部会長 かなり出ている感じ。

○谷藤邦基委員 ええ。令和の令の字が前か後ろかという、見るからにちょっと違うので、合わせていただければいいかなと。

41 ページのところ、多分5の2の3の下の(1)の「家族関係」のところも同様にスペースがちょっと狭いのです。そこの下の3段落目かな、「一貫して低値で推移している」と書いてあるけれども、これも高値ですよね。先ほどの表22のところにも書いてありますけれども。

○吉野英岐部会長 その後の補足調査の結果により、推測される要因は、これ高値の要因になっているから大丈夫なのですね。

○谷藤邦基委員 先ほどの表22、34 ページですか、そこの話ですよね。

○吉野英岐部会長 そうです。

○谷藤邦基委員 次、43 ページのところ、各分野と「各」を入れていただくと。

47 ページのところのですけれども、上から2つ目の段落というか、分析結果のまとめの前の行のところのですけれども、項目を挙げている中で、点が入っているところがあるのですけれども、これ体裁的にはほかは全部入れていないので、この点は2つ取っていただいて。

それから、48 ページの表Cの※印のところ、この網かけのやつが何か逆のような気がするのですけれども。

○吉野英岐部会長 この網かけの濃淡のことですか。

○谷藤邦基委員 濃淡ですね。上昇と低下の濃淡がどうも実際の表と逆になっている感じ。

○吉野英岐部会長 下の注意書きを見ると、濃い方が上昇、斜め線が下降になっていると

説明してあるが、色つけが逆になっていると。

○**谷藤邦基委員** 注が逆なのか。いずれそこは合わせて。

○**吉野英岐部会長** そうですね。注と一緒にするように。

○**谷藤邦基委員** ええ。

あと、56 ページの表Eですけれども、※の3番に似たような感じで書いていたのですが、ここも高い、低い逆だということもあるのですが、それ以上にここ令和2年と3年の比較ではないですよ。あくまでも「どちらともいえない+影響を感じない」に対する変動を見ているのですよね。だから、※の3のところは色というか、濃淡の表示と説明そのものをちょっと見直ししていただきたい。

大小取り混ぜて、私が気がついたのは以上です。

○**吉野英岐部会長** 大変丁寧に見ていただき、ありがとうございます。ほとんどの御指摘は、表記あるいは対象の問題ですので、これは直せると思いますので、最後の完成版を作る前に御確認していただきまして、修正できるものはどんどん修正していただければと思います。ありがとうございました。

そのほか御質問ありますか。

間違っているかどうか分かりませんが、最後の58ページの所属の表記はこれで皆様よろしいですか。現所属というのは、「現」というのはいつかと言われると困るのですが、「現」というのはこの報告書の出る令和3年11月になる予定ですか、月は。

○**池田政策企画課特命課長** はい。そうですね。総合計画審議会の日が最終決定だと思っていますので、11月12日を。

○**吉野英岐部会長** 予定していると。ちょっと先ですけれども、その時点でこの所属でよろしければ、このまま載せていただくということにしたいと思います。

若菜先生も変わっていませんね。では、所属は大丈夫そうだということで、このまま行きたいと思います。

そのほかお気づきの点ありますか。

今のページの参考3の、これ日付入れますか、一番下。総合計画審議会、日程は決まっていますので、11月と書いてあるところ。

○**池田政策企画課特命課長** 最終版としては、11月12日を入れて。

○**吉野英岐部会長** 入れますか。では、最終版には総計審の日付を入れてください。

あと、細かい点でも、この後事務局に最後一任になりますので、お気づきの点があればお願いします。

それでは、今委員の皆様から御指摘いただきました点を修正した上で、総計審に提出す

るという方向で御了解いただければと思います。大変分厚いものでありまして、本編だけでも今のお話ですと、58 ページになります。今年は、本編の後半部分に新型コロナウイルスの影響が入っておりますので、それが 43 ページから後半入っていると。これは、去年の幸福にはなかった部分になっているのかな。ですから、本編自体も少し膨らんでいるということと、その本編を支える資料編というのがその後五百何ページあるということで、これを全部読んでいただく人は本当に大変ですけれども、でもただここでもミスがないようによろしくお願ひしたいと思います。

さらに、これでは大きいので、概要版というもので、資料 2—1 で、これは A 4 で 6 ページにまとめてあります。恐らくこの概要版の方を御覧になる方がたくさんいらっしゃるのではないかと思いますので、今の本編の方の修正意見について、概要版の方でも一応確認していただきまして、該当する箇所があれば併せて修正をしていただければと思います。概要版もこれバージョンで言うと、相当なバージョンになっていまして、書いてはおりませんけれども、10 回ぐらひは作っていると思いますので、最終的には 11 月 12 日に提出するという形で、あと数日ですけれども、お気づき、あるいはよりよくという点があれば修正を事務局の方でお願いしたいと思います。

内容の面でよければ、今年この年次レポートについては以上で討議を終わらせてまして、次の議題に移りたいと思います。ありがとうございます。

## (2) 令和 4 年「県の政策に関する県民意識調査（補足調査）」について

**○吉野英岐部会長** それでは、続いての議事の 2 になります。ここは、この次ですね、令和 4 年の県の政策に関する県民意識調査の補足調査につきまして、どう進めるかということも事務局として案があるようですので、それを御説明お願ひしたいと思います。

**○池田政策企画課特命課長** それでは、資料 3 を御覧いただきたいと思います。令和 4 年調査、来年 1 月から開始していくということになります。我々事務局側の基本的な見直しの考え方といたしましては、今年調査をまずは準拠してやっていきますということなのですが、その中において①で設問自体は、今年実施した調査の中身とするのですけれども、分野別実感の変動を把握するために必要に応じて修正を行いたいということ、あとは補足調査の中で回答理由と関連の強い要因として挙げているものについて、これを最終的に使う部局側に意見照会をして、その内容により必要に応じて修正を検討するというにしたいということです。3 目といたしましては、新型コロナウイルス感染症の影響の設問について、こちらは来年も継続したいとは思っているのですけれども、今年部会等でいただいた御意見等も踏まえながら、分野別実感と同じものなのだとということが分かりやすいように整理をしていく必要があるということ、あと自由記載欄の取扱いについても様式の変更について考えていきたいというものでございます。

具体的には、2 の変更案ということで、①です。こちらの方につきましては、基準年である平成 31 年との比較については、補足調査でやるに当たって「心身の健康」が「からだの健康」と「こころの健康」に分かれているということで、単純に比較することができないような状態になっているというものでございます。ですので、ここについては、従来どおりの「からだの健康」と「こころの健康」については聞くのですが、その上に 1 つ「心

身の健康」としての実感を把握することで、平成31年の意識調査と比較できるような形にしたいということで、御提案をさせていただきたいというものでございます。

2つ目でございます。こちらの方につきましては、部局からの回答結果からの提案ということになるのですが、現在地域の安全のところの要因として挙げている「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）」ということになっているのですが、社会インフラとしてのイメージとなると、下水道というよりは道路とか、トンネルとかの方がイメージしやすいのではないかとということでの提案があったというものでございます。

3つ目でございます。こちらの方につきましては、新型コロナウイルス感染症のところの整理でございます。おめくりいただいて、A3の新旧が見えるような形で整理をしているものでございます。ご審議の中でも谷藤委員から問1-1の分野と違うというような形で見ているのではないかとというような御意見を頂戴していましたので、きちんと分野と調査項目の名称を整えるということをして1つしてございます。

もう一つ、自分の実感ではなくて、もしかすると客観的というか、他人事というか、そういった部分も含めて書いているのではないかとということで、前回も箱囲みの中にはあなたの実感に最も近いものと明記をしているのですが、それを外側に出してきて、新型コロナウイルス感染症の影響についてあなたの実感に最も近いものを選んでくださいということで記載をしているということにいたしたいと思っております。

あと、具体的な内容、自由記載欄として前回が一番下にまとめて記載をいただいたのですが、こちらをまとめて書いてしまうと、どの分野のことを言っているのか分からない。しかも、これがいい影響、悪い影響、どちらのことを言っているのか分からないので、今回は事務局側の方で整理をさせていただいたところではあるのですが、具体的に聞いた方が整理するときにお答えいただいた方の趣旨に沿った形での反映ができるのかなというふうに考えてございますので、そういった修正もさせていただきたいと思っております。

事務局からは以上です。

**○吉野英岐部会長** 資料に基づいて御説明ありがとうございます。もうすぐ行われる予定の令和4年の補足調査の質問項目について、若干修正をしたいということで、その内容がまとまったので、御提案いただいているところです。大きな変更というよりは、比較可能な形にできるようにというのが一番の分野別実感で、こころの健康、からだの健康の上に心身の健康という統合的な設問を1つ置けば、以前との比較ができるということで、質問される方には1個問題増えてしまうので、ちょっと申し訳ないのですが、設問1つ増やしたいということでございますが、これはよろしいでしょうか。

では、竹村先生。

**○竹村祥子委員** 質問の意図も分かりましたし、今の御説明はいいのですが、こちらに頂いている紙が、見直し部分だけが入っているので、もしかしてうまくいっているのかもしれませんが、問4という質問文です。新しい方の問4という質問文なのですが、次に新型コロナウイルス感染症の影響について、問いの1-1における分野別に、「あなたの実感に最も近いもの」となっているのですが、これ問1-1にこの表が入ることですか。

○吉野英岐部会長 分かりますか。では、事務局、どうぞ。

○池田政策企画課特命課長 すみません。昨日、修正版をお送りさせていただいて申し訳なかったのですが、この部分に修正がかかっておりまして、メールを御確認いただいてもよろしいでしょうか。

○竹村祥子委員 分かりました。問4として、「次に下記調査項目に係る新型コロナウイルス感染症の影響について、あなたの実感に最も近いものを1つ選んで」という、送っていただいた方の文章になるということですね。

○池田政策企画課特命課長 そうです。そちらの方で整理をさせていただきたいという趣旨でございます。

○竹村祥子委員 承知しました。すみません。分かりました。

それで、加えてなのですけれども、問4として入ってくるということですから、あまり問題ないかもしれませんが、新型コロナウイルス感染症の影響についてという形で、ここだけは太字の方がいいかなというふうに思いますが、いかがでしょう。

○吉野英岐部会長 どうでしょう。これは前の、旧バージョンは全部ゴシックかかっている、新バージョンは何もかかっていないのですけれども、これはどうされますか、事務局。

○池田政策企画課特命課長 太字にいたします。

○吉野英岐部会長 全部、それとも新型コロナウイルス感染症の影響だけ。文章全部太字にしますか。

○池田政策企画課特命課長 基本的には、全部でいきたいと。少なくとも「また」の前までは、「○をつけてください」までは太字になるというふうに考えています。

○吉野英岐部会長 ほかのところも多分そうだと思うのですけれども、文章全部が太字になるのではないかということです。ほかの先生、いいですか。新型コロナウイルス感染症のところは、もうちょっと見えるようにした方がいいですか。新型コロナの影響ということがよく分かるような、太字の太字というのがあるのですか。

○和川央委員 下線でもいいのではないのでしょうか。

○吉野英岐部会長 下線とか。何の影響だか分からないと言われてしまうと困りますので、そこはちょっとでは分かりやすく、見える方に伝わるようにお願いします。

竹村先生よろしいでしょうか。

○竹村祥子委員 はい。承知しました。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

山田委員、お願いします。

○山田佳奈委員 こちら内容的には、私も異議ございません。あとは確認といいますか、問いの4の新バージョンの方の今度①の心身の健康が、これが追加されたということになりますよね。それで、お聞きするときには、イメージとしてはトータルではどうでしょうかと。心身の健康で、全体としてはどうでしょうかということ。からだの健康は大丈夫なのだけれども、それぞれで違うかもしれないという、そういう理解で。すみません、確認ということなのですから。

それで、それこそ今もお話ありました、これを入れるとのことなので、もちろんこれから整理をしていただくのかなと思うのですが、すごく細かい話ですけれども、線が①—1のからだの健康の上の方の5、4、3、2、1、0のところがちよっと太くなっているものですから、何となく上が軽く見えてしまうというか、①の心身の健康の上の方、つまり項目とか分けるところの太線のところが強調された方がいいのかなという感じがしました。これ、たまたまだと思うのですけれども。

○吉野英岐部会長 目がいいですね、そのとおりだと思います。表頭ですね、表の頭のところと心身の健康の間にもずっと線があるのだけれども、そこが区切りになるということだから、そこが太線でいいのではないかと。

○山田佳奈委員 そうですね。何かサンプルに見えてしまうというか。

○吉野英岐部会長 そうか、そうか。例みたいに見えてしまうから。

○山田佳奈委員 ということでした。すみません。細かいところです。

○吉野英岐部会長 事務局、いかがでしょうか。

○池田政策企画課特命課長 修正します。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。そうですね。ちょっとここは、新しくつくるので、区切りがしっかり見えるといいかなと思いました。

そのほかいかがでしょうか。

ティー委員、お願いします。

○ティー・キャンヘーン委員 問4なのですけれども、600人に最初から依頼されて、年



追うごとにどんどん負担が増していく。これで果たして協力していただけるものでしょうかというのがちょっと心配なのです。書くものが増えていって、もういやと投げられたら、こっち側としては。確かに旧バージョンはちょっと分かりにくいというのは分かるのですけれども、ちょっと心配です。

あと1点です。あとは、資料3の1ページ目の②番。確かに新バージョンは分かりやすいのですが、それによって、要するに前と比較できなくなって、ある程度こう書くと誘導してしまうので、結果としてこれも悪い方に流れるというところもあるので、これはいいのですか。後で私たちが見たときに困らないかなとちょっと思ったのですが、いかがですか。

**○吉野英岐部会長** 2点。確かに書く方には負担が増えたようにも見えますので、具体的な内容を一切書かなくなってしまうたら、逆に情報がうまくいただけない。

和川委員。

**○和川央委員** では、ティー委員のご意見に関連して、私も御意見申し上げます。私も自由記載の扱いについては悩ましいと思っていますところ。正直分析する側とすれば、この設問があれば非常に分析して深みが出るなどと思いつつも、コロナがここまで収まりつつある中で、ここに設問を加えるメリットはどれくらいあるのだろうかという意味で、正直どちらでもいいかなと思っています。一方で、アンケート設計の視点からは、どちらでもいいというときには、ティー先生のおっしゃったように回収率の低下やバイアスが懸念されるのであれば追加しないのが妥当であることから、総合的に考えると追加しない方がいいのではないかと感じています。

なぜそう感じたかという、メインは幸福を分析する方ですので、そっちにもっと時間をかけるべきではないかと。今の手法が正しいのか、あるいはパネル調査が蓄積していて、また分析も増えてきている中で、もっとそっちに注力するべきではないのかなというのも含めまして、あってもなくてもいいかな。そして、ティー先生の懸念を考えると、なくてもいいのかなと思っています。

以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

ほかの委員さんからはいかがでしょうか。問4についてです。プラス・マイナスありますからね。回答者にかかる負担感、ここであまりやってしまうと、全体に回答していただけないのではないかとすることはありますが。

**○谷藤邦基委員** 悩ましいところですね、正直やってみないと分からないところもいっぱいあるので。ただ、変えれば格段に変化が出るという、そのリスクをどう考えるかだと思うのです。皆さんの発言とか、そういうのを聞いていて思うのは、確かに私らの一番の目的は幸福の分析というところにあるのであって、その一部としてコロナの影響ということも考えなければいけないけれども、それは必ずしもメインではないとすると、そこにそんなに負担感を感じさせるようなことはしなくてもいいのかなという方に今ちょっと傾き

つつあって、今和川さん言われたとおりで、やっぱり私らもその目的忘れてはいかんという話ですよ。だから、それによってもし回収枚数が何枚かでも減る懸念があるのであれば、変えない方がいいかなという方にちょっと今傾いています。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

竹村委員、お願いします。

**○竹村祥子委員** 私は、逆にこれは入れておくべきだと思っています。というのは、やっぱりこれも災害の一つだと思うからです。東日本大震災の災害からの復興、その他に関しては随分長い間ずっと経過を見続けてきたという意味もあったと思うのです。今回は、確かに新型コロナウイルス感染症については、岩手県は非常にうまい、多分成功事例なのではないかと私は思っていて、そうすると心身の健康への影響は、それほど受けなかったという結論が出てくるのではないかと思うのです。今後全世界的な感染症はこれで終わるわけではないので、今後いろんな形で県の対策を考えなければいけない未来があるだろうと思う。だから、そのときに、終息がうまくいくと、そのところがどう心身の健康やその他のことに関する影響が出ていたのかという、県にとっての基礎のデータになるのではないかと推察しています。それなので、県民の皆さんには御負担かもしれませんが、やっぱり県民調査というレベルで取っておく必要があると思っています。

以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

若菜委員、どうぞ。

**○若菜千穂副部会長** これをぱっと見たときに、私はずぼらなので、数字に丸だけつけて、記述はしないでさっと行くからまあいいかと思ったのですけれども、真面目な人は、あれこれ1個1個補足書かなければいけないのかという、そう思うのであれば相当な負担。本当に真面目な人は、ではこれ時間あるときにやるかとして、そのまま回答を忘れるみたいな、そういうようなことにはなるかもしれないなということで、お話聞いていて、なくてもいいかな派です。

もう一個の意見としては、今竹村先生おっしゃったように、取る必要はあるとは思いますが、これが幸福度にどう関わるのかという分析はまだ確立していないイメージがあって、その分析をしないのであれば、これは少なくとも取る必要があるなしは別としても、この部会で取り扱わなくてもいいかなと。普通に県の本体の方で取られて、分析をされるべきではないかなと思いました。

ただ、1月は恐らく第6波来るのではないかと皆さん思っていると思うので、まだ渦中であると。もし取るのであれば収まった後まで、取るのであれば次ともう一回ぐらい、収まったところと、まだ渦中のところの比較ぐらいまでは、今回やるのであればあと2回ぐらいもやるのだろうかぐらいな覚悟でやるかやらないかは決められた方がいいかなと思いました。

以上です。

○吉野英岐部会長 ありがとうございます。

山田委員、いかがでしょうか。

○山田佳奈委員 すみません。私、ちょっと揺れているのですけれども。前に御連絡いただいたときに、この原案、例といいますか、そのときはかなり明瞭になるからよろしいのではないかなと前向きに思っていたのですけれども、今日これをぱっと見たときに、もちろん事前に頂戴しましたけれども、ぎょっとはするとか、圧迫感はあるかなというのは、確かにちょっと正直感じたところではあります。これ先ほど若菜さんがおっしゃったとおり、真面目な方は書かれるかもしれないなのを私も感じます。上の設問を見ますと、具体的な内容があればということにはなっているのですけれども、確かに全部書かれる方もいらっしゃるかなという気もしてきました。

これは、一つの案なのですけれども、折衷案といましようか、全部埋めてくださいという意図ではないですよ、多分。特にと、全部にわたって聞かせてくださいということでないでしたら、旧案の、上の心身の健康はあるとして、その下の回答の理由となったというところに、例えば番号欄か何かを付して、番号とそのコメントを2つぐらい、メインとなったものをよろしければ書いてくださいみたいなということで、そちらに限定した方がひょっとしたら圧迫感は少なくて済むかなという気もしながら今見ていました。ぱっと思いついたという意見ですが。

○吉野英岐部会長 各委員から御意見いただき、ありがとうございます。

私もいろいろ皆さんの御意見聞いて、具体的な内容が個別に分かるとひもづけがやりやすいので、調査側でひもづけをすると、本来の回答意図と違ったところと結びつける可能性があるので、そこは避けたいということで、各項目との影響の度合いと理由のひもづけをきちんと取れば、まずそれが一つ目的であると。

もう一つは、でもだからといって、全部書いてもらうというところまでは考えていないとか、書く義務ということではないという整理になると思って聞いていました。県民の皆様は、さっきちらっと出た比較的真面目な県民性というのはよくあちこちで言われてしまうので、もし書くと、全部書かなければいけないのと思われてしまうのもこちらの意図ともちょっと違うし、それは大変な御負担を、1、2、3、4は全部つけてほしいので、これは必ずつけてほしいのだけれども、理由については具体的な内容があればというぐらいですので、全部つけなければいけませんよとまでは言っていないと。そう感じ取ってもらいたいとなると、さっき山田先生が御提案された一番下に空欄を残しておいて、その空欄の中で具体的な内容、理由を書いていただくときは、丸番号が頭にありますので、番号を付して、その番号の後にその理由をお書きいただければとすると、ひもづけがこちらになってしまうということが避けられるということと、書いていただけるのであれば圧迫感のない形で、また書かなくてもいいということをやはりうまく伝えることが、一番下に置いておけばあるのかなと思ひまして、ひもづけを何とか確保するためには番号を付してという一言を入れて、そのように書いていただくことで、具体的な内容について1個1個、14ぐらいあるので、そこについてはちょっとレイアウトを修正していただいて、内容を下にま

とめて、少し大きめの箱を用意して書いてもらうということでもいいかなと私も思いましたけれども、ほかの委員さん、何かさらにそれではちょっとという御意見があれば。  
竹村先生、どうぞ。

○**竹村祥子委員** 私も今のお話聞いていて、山田先生の案がいいかなと思っています。

○**吉野英岐部会長** ありがとうございます。  
谷藤委員、どうぞ。

○**谷藤邦基委員** いずれ私も今聞いたのをベースに若干変更するという方向でいいと思っています。

その上で、前回私が申し上げたことなのですからけれども、要するに基本的な問題は問いの1-1に答えた自分の実感に対する影響がどうかということが明確に問いに表現されていないということを書いていたつもりなのですからけれども。言っている意味分かりますか。だから、コロナの影響について実感を聞くのではなくて、実感に対するコロナの影響のところを聞かないと、私はひもづけできないということを書いたと思ったのですけれども、現にあれだけ乖離が出ているので、コロナの影響はあったけれども、実感に対する影響はなかったということなのかというような、何かよく分からない結論になってしまっている。だから、それは結局もしかすると、世の中一般に対する影響についてはあったと実感をしていると受け止められたかもしれないということを書いていたので。だから、例えば旧版であれば、あなたは新型コロナウイルス感染症のあなた自身の実感に対する影響についてとかと、あるいは問1-1で回答した実感についてどのように影響していましたかみたいな問いにさせていただくといいかなと思っていました。

○**吉野英岐部会長** こちらが聞きたい内容ですね。

○**谷藤邦基委員** 一番聞きたいのはそこなのですよ。だから、コロナウイルスのあなたの実感に対する影響が聞きたいのだというところを明確にこの問いの中に表現してほしいというのが私の注文でした。

○**吉野英岐部会長** 社会一般と受け取られるという可能性があるのですね。

○**谷藤邦基委員** 何かどうもそういう感じで受け取めている方が多いのではないかなという気がちょっとしたので。確かにこれだけの騒ぎになって影響ないわけじゃないよね、では影響があるのではという回答が結構あったのではないかと、これはでも推測というか、臆測です。分からないのですけれども、だからそこを明確に問いの中に入れていただくのか、単純に実感ではなくて、あなたの実感に対する影響、そこを聞きたいのだと。

○**吉野英岐部会長** そのように少し書き込んでありますけれども、今回の新しい問いの1行目なんかは、「あなたの実感に最も」ということなので、あなたの実感に影響があった

と思われる内容といえますか、理由を下で書いてもらうということで、社会一般ではないというあたりをきちんと回答する側に伝わるような表現とレイアウトで聞いてみてはどうかという御意見でしたので。ちょっとぎりぎり時間がまだ少し残っていると思いますので、今の御意見を参考にさせていただいて、事務局の方でレイアウト案を少し練っていただいて、委員の方にそれを一旦出して、最終的にはオーケー取ればいいのではないかと考えています。大きな変更というよりは、欄をまとめるか、個別に残すかということと、それよりも、そっちよりもむしろやっぱり最後谷藤委員がおっしゃられたように、ここで聞きたいことをきちんと回答者の方に理解していただいた上で答えを書いてもらうというようなところが、分析としてはそっちを使いたい。そこをきちんとしていただくことで、もう一作業お願いしたいと思います。申し訳ありませんが、よろしくお願いたします。

**○池田政策企画課特命課長** 意見の確認をさせていただきたかったのは、問4の方はこれからちょっと検討させていただきたいのですが、気になっていたのはバイアスの話で、②の社会インフラのところの例示のお話、事務局としても基本的に違う方に誘導する気はさらさらないので、そういう点があるのであれば変更しないという選択肢が当然あるのかなと今私の方としては思っているのですが、そこをどういたしましょうかというのが1点です。

もう一つは、心身の健康の項目の追加について、コロナも併せてやるということでもよろしかったですか。

**○吉野英岐部会長** どの変更ですか。

**○池田政策企画課特命課長** 問4のところ右側の新しい①、心身の健康を入れて、その内訳として、からだところとやっている。流れは、これで行かせていただければ、具体的な内容のところはとりますけれども。

**○吉野英岐部会長** いいのではないですか。心身を2つに分けるといいますよね。

**○池田政策企画課特命課長** そうです。

**○吉野英岐部会長** はい。2つに分けると、頭に1個置くということですね。

**○池田政策企画課特命課長** 追加して。

**○吉野英岐部会長** これは特に御議論なかったもので、いいと思います。

**○池田政策企画課特命課長** 分かりました。では、そのバイアスのところを。

**○吉野英岐部会長** そうなのですよ。質問文の例示を変えると、例えばトンネル事故が、あるいはトンネル崩落とか、そういうことが社会的ニュースになってしまうと、確かにト



ンネルの文字に引きずられて、これは老朽化だねというような推測というか、関連づけをしてしまって、そうだと思うという回答を誘発する可能性がないわけではない。

**○ティー・キャンヘーン委員** 気になったのは、要するに例示を変えることによって、大分結果が変わったということは一年間でこんなに変わるものかと後でこちらで議論するときに困るといふか、それは例示が変わったとかという結果なのか、やっぱり何かがあってこういうふうになったのかというのが分からなくなってしまうので、例示を変えるという、そこまで私どももすごく悩んでしまうのもあるのですよということで、変えてよろしいですかという委員の皆さんへの問いかけ、変えない方がいいのではないですかということなのです。

**○吉野英岐部会長** 分析する側としては、同じ条件で聞いた方が余計な意図は排除できるのでという御意見でした。

和川さん。

**○和川央委員** 今回いくつか県から提案があった中で、時系列でつながらない可能性があるものは却下されたと思っています。最初にこれを見たときに、ぎりぎりセーフなのかなと、許容してもいいかなとは思っていたのですけれども、バイアスの懸念があるということなのであれば、そのリスクは負う必要はないと思いますので、そういう懸念がある以上、私は直すべきではないと考えています。

**○吉野英岐部会長** 社会インフラという言葉で大体分かっていただけるだろうということですね。

ほかに。今は、分析担当をされる側の意見としては、変えない方が分析の精度が確保できるのではないかと御意見でした。行政側は、いや社会インフラはこういうのもあるのですよと言いたいお気持ちも、それは一方で分かります。

山田委員。

**○山田佳奈委員** すみません。いいかなとは思っているのですけれども、意見変わって申し訳ないのですけれども、積極的に変えなければならない理由がなければいいのかなという気もしてきました。すみません。非常に雑駁とした意見ですが。

**○吉野英岐部会長** 確かに。いっぱい項目あるので、社会インフラというのは。そう言われてみると、あと10個くらい出しても大丈夫かなと。そうすると何だか分からなくなってしまう。何か事務局ありますか。

**○池田政策企画課特命課長** 今のお話を伺っていて、いずれこの分析精度が下がるのであればやらない方がいいと考えております。ということなので、そここのところはそのように修正をさせていただければと思います。

あともう一つ、先ほどちょっと新型コロナウイルス感染症の話で御議論があったのです



が、先ほどの説明の趣旨としては、竹村先生もおっしゃったとおり、新型コロナウイルス感染症が終わったわけではないということで、引き続き調査をやらせていただきたいということと、日経新聞でしたか。そちらで分析したところ、幸福度とコロナの関係も一部記載している記事があり、この二つに関連性が見えませんでしたという記事が出ていました。まだ始まったばかりと言っていいのかどうか分からないのですが、この影響が見えてきた段階なので、事務局側としては分析のメインではないかもしれないのですが、やはり幸福の実感の変動した要因の一つとして考えられるということであれば、引き続き分析を進めていただければという思いがあります。当然、主たるところの幸福の実感の変動要因とどう結びつけたらいいのかというところではあるのですが、これに関連する要因として、その分析ができるようなことを次年度も検討いただければと考えているというところがございます。

以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。補足調査に載せるということは、分析しなさいということですので、削るとは言っていませんので、引き続きコロナの影響については部会の中で分析をお願いしたいという決意表明のようなところでした。

そのほかはよろしいですか。

「なし」の声

**○吉野英岐部会長** では、すみません。まとめますと、変更案の①についてはこのとおりでオーケーと、変更してください。追加してください。

②については、回答にいろんな影響を与える可能性が否定し切れないので、ここは従来どおりで進めてください。

そして、③については、いろいろありますけれども、まず心身の健康という項目を入れることについてはオーケーです。そして、設問についても少し言葉増えてしまいますけれども、こちらの意図が伝わるような設問にして、ゴシックにしてください。それから、けい線については区切りのはっきりするところは少し太線にしてください。それから、各具体的な内容については、もちろん各項目ごとにひもづけできることが大事ですので、項目ごとにどういう御感想、御意見なのかを見たいところではありますけれども、全ての項目に欄を作ってしまうと、回答者への負担あるいは回答者の義務感というものを生じさせてしまう可能性も否定できないということですので、一番下に自由回答欄をつくりつつ、その自由回答欄の中でひもづけができるように丸番号と、その影響の内容について、さらにそれが個人の実感の影響に関わるものであるということもきちんとお伝えした上で、御回答を書いていただくということで、どうしても私たちが欲しいのは、数字にこだわって申し訳ありませんが、5から4、3、2、1、0のところのつけ落としをなるべく回避したいということですので、そこを確保するために自由回答については下の欄にまとめるとことで、義務と任意というのを少し明確に分けて、上の方はすみません、全員回答書いてください、下の方はそういう気持ちの強い方はぜひ書いてくださいというようなサインも出せるかなと思いましたので、ちょっと事務局の方で工夫してみてください。その結

果については、委員の方に一度出していただいて、なるべく早く確定したいと思います。

補足調査の見直しについては、以上のようにまとめますけれども、若菜委員、竹村委員よろしいですか。

「なし」の声

○吉野英岐部会長 ありがとうございました。

### (3) その他

○吉野英岐部会長 それでは、大きな議題は今日ここまでですけれども、続きましてこれからのスケジュールについて事務局から御説明をお願いしたいと思います。その他ですかね。

○池田政策企画課特命課長 はい。それでは、資料4を御覧ください。来年度につきましては、基本的なスケジュールは今年度と同様で進めたいと考えてございます。ただ、一応現行アクションプランが来年度いっぱいということになってくるということもあって、本部会の設置時にお話をさせていただいていた、分野別実感と幸福関連指標との関連性の検討というものを少しチャレンジしていきたいなと思っています。ただ、すみません。これもどういう風にやるかというところがまだ整理されていないところでございますので、来年度に向けて委員の皆さんに御協力をいただきながら、事前に少し分析をした上でお諮りをさせていただければと考えており、予定としては入れ込ませていただいております。第1回、第2回は連続して行いますので、第1回のところでは先ほどお話しした幸福関連指標と分野別実感の関連性の部分、あとは通常どおり分野別実感の変動要因の分析ということをやります。2回目は、残っている分野別実感の変動要因の検討した上で、第3回で一応幸福関連指標と分野別実感との関連性の変動についてはおおむねの整理をさせていただいた上で、分野別実感の変動要因の分析をさらに進めて、7月に開催された第4回部会で分野別実感の変動要因の分析をおおむねまとめていただいて、素案を完成させる。その内容を踏まえて、今年同様政策評価に活用していくというようなことを考えておりました、最終的には今年度同様10月あたりに年次レポートを作成して、総合計画審議会に御報告をしていくという流れを想定してございます。

事務局からは以上です。

○吉野英岐部会長 今資料4のワンペーパーに基づいて、来年度の流れについて説明がありました。ちょっとより踏み込んだ分析もしたいということの御提案もありました。これもやったらどうなのという御意見も含めて結構ですけれども、あればどうぞ。

では、和川委員。

○和川央委員 ありがとうございます。本部会のミッションとして、毎年の政策評価に生かすという1年ごとのPDCAと、アクションプラン、4年の中期的なPDCAの2つを回すのに歯車として加わっているという理解をした上での質問です。最終的な部会の取り

まとめ、要は4年ごとになるかと思うのですが、そこは来年度取りかかられるのですか。令和5年度になるのだという理解でよろしいですよというのが1つの質問です。

2つ目の質問が、幸福関連指標との関連性の検討がどのようにアクションプランなり政策に反映するスケジュール、手順を考えていらっしゃるのか。言い方を換えると、アクションプランの策定とか、指標の設定がいつ頃行われていくのか、どの辺りに分析結果が反映することを目指しているのか。来年度で決めるつもりではないと思うのですけれども、どこをアウトプットにゴールを目指して議論をしなければいけないのかというのが2つ目です。

3つ目は、これからちょっと離れるのですが、ワークショップがどのタイミングで出てきて、どのタイミングで報告が上がっていくのかというところ。

以上3点を、分かる範囲で結構なので、教えていただければと思います。

**○吉野英岐部会長** では、事務局、お答えできる範囲で結構ですので、お願いします。

**○池田政策企画課特命課長** 1つは、スケジュールの話ですが、今お話のあった1番、2番は多分接点があると思っております。アクションプラン作成のスケジュールの話については政策担当さんとまだ綿密な打合せをしていませんし、決まっていないという認識です。普通に考えると、大体のイメージとしては、来年度中にアクションプランを作らなければいけないというのが通常の流れだとは思いますが、そして、指標設定をいつぐらいにするのかということ考えると、やっぱり夏過ぎぐらいには指標をきちんと考えておかないと、とても年度内に終わらないだろうと考えているために、現在こういったスケジュールを記載させていただいています。来年6月、7月ぐらいのところでのこの関連性のところの整理ができてさえいれば、指標との検討に入っていけるのではないかと考えています。

ただ、いろんな要素があるので、スケジュールとしては、多分前に倒れることはないのですけれども、後ろに倒れることはあるのかなと思っています。実際のところアクションプランが終わってから、この分野別実感と幸福関連指標の関係性を分析するのが、本当は一番いいとは思ってはいるのですが、そうしてしまうと次のアクションプランに生かせないというタイミングになってしまうので、私どもとしては来年度分析していただいた結果をアクションプランに反映するという流れを今のところ想定しているのです、このようなスケジュールになっているということになります。

ワークショップというお話がございました。ワークショップのスケジュールをどういう風に持っていけるかということになると、やはり実質的には来年度の事業になってしまうので、現在の今年やったような流れにならざるを得ないと考えています。

以上です。

**○吉野英岐部会長** 和川委員、どうぞ。

**○和川央委員** 答えにくい質問に答えていただきありがとうございます。そうすると、この年次レポートの素案というのは、単年度やれば3年目は実質3年間やったことになるという整理もあるし、次のアクションプランにつなげるのであれば3年間分のまとめを別

にやるのかという整理もあります。年次レポートのボリューム感が毎年のボリューム感でいいのか、まとめの年度は少し内容を厚くしてちょっと厚めのボリューム感なのかという、最終年度のレポートの落としどころ。あと幸福関連指標との関連性の検討と書いてあるので、結論は後でいいのかなと思ったのですが、最短では7月に報告をするくらいのイメージになるということではよろしいのか。追加の質問になってしまったのですが、確認です。

**○吉野英岐部会長** 事務局、いかがですか。

**○池田政策企画課特命課長** 補足調査の結果、検討と書いているのは、先ほどもお話ししたとおり分析した結果、多分データがそんなにないところが結構あって、それをここで関連性の有無まで断言できるのだろうかとかという部分もちょっと私には分からないので、そういったところをまず分析をしてみて、その内容を踏まえて部会の中で御検討いただいて、どういうふうな整理となるのかなというところは、今のところまだはっきりしていないので、このような表現でとどめているということになります。

もし何がしかの結論が出るのであれば、やはり6月、7月ぐらいのところまでにいただかないと厳しいかなというところでのお話です。年次レポートの話は、同じくくりで毎年どんどん作られていくのですが、この冊子の中で収まらなくなってくるのだらうなと思っていますので、この年次レポートの作り方というか、来年度の分野別実感と幸福関連指標の関連性の検討がどれぐらいのボリュームになるかちょっと分からないのですけれども、そこも横目に見ながら、レポートの在り様を考えていかなければいけないのかなとは思っています。もしかすると、レポートとして、資料編とは完全に別冊にしようというのも一つかもしれませんし、もしくはそこの実感のところの検討だけ切り離してしまうということもあるのかもしれないのですけれども、そこは最終的に出来上がりの形なので、まずは内容的なところを整理できればいいのかなと考えています。すみません。ちょっとまとまらない感じですが。

**○吉野英岐部会長** よろしいですか。ありがとうございました。

ほかにスケジュール等で御質問ありますか。私知っている限りでは、政策評価に活用という文言が入っているとおりなのではございますけれども、実はこの幸福実感調査ですか、この結果は今日の午後にも政策評価の委員会があるのですが、かなりというかわられることになっていまして、つまり実感が下がっている分野については評価も連動して下げるといような今仕組みになっています。今までは、県庁の方でこれだけ仕事をやりましたと、こういうパフォーマンスが出ましたということで、評価A、B、C、Dということが中心にあったのですが、去年ぐらいから、それはそれでももちろんそのとおりなのではございますけれども、それがちゃんと実感として届いているのかというような評価軸が一つできて、県民意識調査の分野別実感のところからそれが出てきますので、それが前年度よりも下がっているという場合は、それがちゃんと届いていないのではないのかというような意味づけをして、評価については満点にはならないと、ワンランク下げるといような使われ方をして、そうすると多分政策現場としては、これはちゃんと実感に届くようにしないと評価が上がりませんの

で、届けるようにするにはどうしたらいいのだろうかということをおそろく考えてくると。

そうすると、今度政策としてはどういう政策を打つのがより届くのかというポイントがサイクルの流れになって、そのときに我々がやっている分析結果であるとか、データを多分現場は読み込んでくださって、こういうことが実感に効き目があるというのはちょっときつい言い方ですけども、効果があるとか、関連性の高いことではないかということが分かってくれば、やはりそういった有効な政策というものを中心に今度立案して行って、それでこのプランを作っていくという、いわゆるPDCAと言われてしまえばそのとおりなのですけれども、そういったサイクルの中にこの実感の数値と、その分析結果というのを政策的に反映しようというのが岩手県の流れになっていると思っています。

です、それだっただけでずっと永遠にやるのかということになってしまいますけれども、一応政策プランというのは今4年間、4年間、2年間となっていて、大きなくくりがですね、その最初の4年間というのは今3年目になるのかな、でいいのでしたっけ。最初の4年間、第1期の3年目、来年度が4年度目になって、来年度で第1期終わってしまうのです。そのときに第2期の用意をしておかなければいけないので、第2期も4年間あるのですけれども、この4年間のいいプランをつくるために、こういった結果もぜひ使いたいということで、7月というあたりのスケジュールが出てくるのは、それより後だとちょっともうプランに反映し切れなくなるということで、我々の委員会のタスクとして分析を早めにかけていくということで、どうしても4月、5月、6月、7月はタイトなスケジュールになっているのではないかなど。本来であれば、じっくり時間をかけてと言いたいところなのですが、それですとプランに反映が間に合わないの、どうしても上半期にかなり精力的に委員会を開いて、結果とその要因について一定の結論を出していくということが求められてくるということです。

ただ、さらにこれは評価に使われますので、では例えば令和3年度の政策はどうだったのかというときに、今回の調査結果についてはこの後、まだ令和2年度ですね、前年度評価ですから、令和2年度の評価については今日の午後の委員会でもう十分に活用されて、今言っただけではないのしょうけれども、評価が落ちるといのが実際ある予定です。ですから、やはりそれについては県庁の方できちんと受け止めていただいて、なぜこれがうまく実感に結びつかないのかということも考えていただくきっかけにはなっていくと思いますので、ただ調査をやっているという意味ではなくて、やはり政策とリンクした形で活用されている実態もあると御理解いただければと思います。このタイトスケジュールは、そういうところから来ているとなるのではないかなと思っています。

それから、長期的には和川さんも言ったとおり、私たちどんどんデータが増えていきますので、基準年と当該年度だけの比較であればいつも同じボリュームで収まるのですけれども、どんどんデータが増えていくと、経年的にどうなのとか、では5年間見たらどうなのというような話が出てくるので、どんどんボリュームが厚くなるというのは、理論的にはそうですけれども、つまり毎年タスクが重くなるという委員会の設定になっていると思います。では、そうなる、どんどん重くなる一方ではないかということになりますので、どこかでは多分一定の区切りをつけるの、だろうなと思っています、それはちょっとデータが全部まだそろっていないので、ある一定の期間データがそろったとき、ではどこからどこまでの分析をどの年度にやるのかというようなことも、多分来年度からそろそろ本格的に



考えないと、本当に分析の皆さんには重い分析というか、データがどんどん増えていくことをやっていただくことになってしまうということがあって、来年それはちょっと考えなければいけないなと思っています。

それから、ワークショップについても、これは来年度の話なので、まだ予算措置取れていないから何とも言えないという、多分そのとおりだと思いますが、ワークショップで拾っていただいている御意見、それがこういった私たちの分析にやはりかなりきちんと使わせていただいていると、大変有効な御意見だということであれば、当然これ続けていただき、それなりの予算措置、エネルギーを取っていただいて、ワークショップの結果については共有をして、より正確な分析に反映していくとなるとと思いますが、一応来年度はやる方向でもう考えていらっしゃる、現場としてはやる方向でいいのでしょうか。

**○池田政策企画課特命課長** はい、そのとおりです。

**○吉野英岐部会長** ですので、これをちゃんと私たちは逆に使わないと、エネルギーをかけてやってもらった方々に対して誠意を欠くことになってしまうので、そこはきちんと委員会の中で、ワークショップの結果についてどうやると一番実感と数値のところを結びつけることができるのかなと使いたいと思います。ワークショップについては、若菜委員に本当に御尽力いただいておりますけれども、現場でおやりになっていかがだったでしょうか。御感想でもいいですけれども、若菜さん、どうでしょうか。

**○若菜千穂副部会長** ちょっと今年度は、直接私関わらなかったのですが、正直なかなか最近になってくると、こちらの声かけられるところにかけていっているのも、また同じことという。基本的に同じことをやらないと意味がない内容だとは思いますが、やればやるほど声をかける相手というのは減ってくるものなので、来年度もやるのだという、できるかなという、正直。ほかのメンバーにはまだ聞いていないのですけれども、継続は正直ワークショップは大変だと思います。

**○吉野英岐部会長** 御苦労おかけしております、ありがとうございます。ということで、若菜委員が整理してくれた問題については、3点ほど、お答えになっているかどうか分かりませんが、確認させていただきました。

そのほかに御質問ありますか。

「なし」の声

**○吉野英岐部会長** なければ、おおむねこのスケジュールを進めてよろしいと受け止めますので、事務局で方であと細かいところを詰めていただいて、進めてください。

用意されている議題は以上なのですけれども、最後に御挨拶はありますけれども、ちょっと予定はないのですけれども、時間が比較的今日は余裕がありますので、せっかく委員、オンラインも含めて6名集まっていますので、今年の結果とか、あるいは分析についての所感というか、御感想をもし一言ずついただければ、来年これから進めていく上でも事務



局の御参考になるかもしれないと思っておりますので、全体を通してで結構ですけれども、特に今年はコロナのこともありましたので、ちょっと例年と違う分析まで踏み込んだところもあります。それも加味していただいて結構ですので、1年間のこの分析部会の所感について一言ずつお願いしたいと思います。

順番ですけれども、すみません、近いところから、谷藤委員から一言お願いしたいと思います。

**○谷藤邦基委員** 最後ということで、所感ということですが、正直あまり所感が思い浮かぶほどの状況ではないです。というのは、私皆さんと違って、今の本業は会社の経営の一部を担っているという立場で、正直物すごく大変です。去年より今年の方が大変。今予想される状況だと、来年もっと大変。コロナは収まったにしても、元にはすぐには戻らないという話を前にもしたと思うのですが、まさにそういう状況になって、ある意味混乱が非常に激しくなっています。日本は、まだいい方なので、アメリカと中国が物すごく大変な状況になりそうな気配も出てきています。昨日のNHKでしたか、アメリカの物流が混乱して、影響が出てきているという。ああいう話、実は数か月前からあるのです。ようやくそれがメインストリームメディアで取り上げ始めたという状況で。現実去年は、飲食店とか、小売とか、観光とか、要するに対人サービスを伴うような業態が非常に打撃を受けて、実は製造業はそれほど悪くなかったのです。去年は。それが今年は、半導体不足を筆頭に、物流の混乱で電子部品が足りない、何が足りない、最近ではエネルギーまで足りないという話になってきていて、製造業に影響が出てきています。そういう中でもともとひどかったところが回復したかということ、まだそういう状況ではない。だから、多分来年の方がもっと大変な状況になります。そういう中で、何とか会社を動かさなければいけないので、日々やれることをやるという状況で、正直所感というか、考えが出てくる状況ではないというのが実態です。

ただ、これ翻って言うと、多分来年の1月、2月の調査は、分かりませんが、この先一般の方々の幸福感に非常に影響はしてくるのだろうなとは思っているところです。端的に言うと、まだ月々の給料をどうするかというところには行っていませんけれども、ボーナスには相当影響出てくると思います。聞くところによると、公務員の方々は若干減るみたいな話がありますが、当然民間はもっと減っているし、下手すると出せない、そういう状況にもなりかねない状況が出てきているので、だから何かちょっとその辺が、私自身の一番の懸念点は私自身の仕事、本業を含めて、そこら辺にあります。それが世の中一般の状況なので、多分幸福感にも影響は出てくるのかなというのが今思っているところです。全然所感になっていませんが。

**○吉野英岐部会長** 実感をありがとうございました。

竹村委員、いかがでしょうか。今年おいでになれなくて、残念でしたけれども。

**○竹村祥子委員** 生活実感のないまま、膨大な力作をデータから読むという作業がとても難しいと思いました。結局非常に身近なところでコロナ感染をどう防いでいくか。大学の学生さんたちをリモートではなくて、対面授業をできるだけ再開するような形でどう進め

るかということに奔走しながら、岩手の方ではそれでも少ないのだなと思いつつ、そのところの生活実感がないうままデータで読んでいて、先ほどもちょっと口を滑らせてしまったのですけれども、やっぱり岩手は少なくとも政策としては成功したのではないかという気がこちらから見るとするのです。埼玉県は、学校に要請される対応が、こういうことに注意してください、というのが細かく入ってくる中だったものですから。外から見たときの感じと、その前の年に読んでいたものとが随分違うのだなというのが正直なところでありました。だから、データが読み切れないことによって私の意見が過激になっていたのではないかなということがすごく心配なところでした。

でも、最後の着地というか、今日のところまで来ると、家族の問題とか、子育ての問題というのはコロナに影響される部分もあるけれども、こういう状況であっても安定的に何か動いている部分もあるのだなというのが読んだところでの感想ではあります。この件に関しては、もう少し今後のデータを見せていただくことでしか回答が出ないだろうと思ったところなんです。どうもこれだけ膨大で緻密なデータを作っていただいて、本当に結果を出していただいてありがとうございました。

以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

あいうえお順で行きます。ティー委員、お願いします。

**○ティー・キャンヘーン委員** データが増えれば増えるほど分からないというのを実感した1年でした。来年もう1年データが増えるので、今からもう頭が痛いんです。学術的にはいいことだと、こうやって県として頑張ってデータを集めて、すごくいいことと思うのですけれども。ただ、分析するに当たって本当に人が替われば、これ果たしてできるのすごく心配しています。今年に関して、本当に事務局がすごく頑張ってまとめてくれたなと思っています。では、さっき和川委員も言ったように、このままでいいのかということ、多分ちょっと違ってくるので、どうするのかなというのは本当に途方に暮れているというところなんです。

以上です。

**○吉野英岐部会長** では、山田委員。

**○山田佳奈委員** 今年度も大変お世話になりましたといいますか、本当に御尽力いただいたことに心から感謝申し上げます。数字が苦手な私には、本当に御礼申し上げるしかないのですけれども。1つは、今のティー委員もおっしゃったように、あるいは先ほど他の委員さんもおっしゃったように、これ幸福感ということとどう、何かだんだん分析の方に、読み込むということに注意がやっぱりかなり、もちろんきちんとした分析ということが主になるということは分かっているのですけれども。ただ和川委員さんおっしゃったように、これからどういうふうに向かっていくかなというのは確かにちょっと考えどきなのかなという気はしています。若菜さんがさっきおっしゃったと思いますけれども、確かに方法論が、これが試行錯誤でやっているというところだと思いますので、ここで少しずつそこら

辺をある種客観的に見詰めながらやれるといいのかなとは思っております。

もう一つは、私の場合ですと、それこそ御尽力いただいたワークショップですとか、自由回答ですとか、こちらを拝見していると、場合によっては、特に高齢者の方ですと、地域とのつながりがなかなか、お話しする機会がどうしても減ってしまって、それで外に出る機会がなくなって体力を失っていかれるという。そうした影響が連動するといひましようか、幾つかの要素といひましようか、というのが連動していくということも推察できるお答えも拝見しております。ですので、先ほど次回の補足調査の間4のところ、ひもづけということでまとめていただきましたところ、自分で言っておいてなんなのですけれども、場合によっては番号では記しにくい方の御感想もあるのではないかなという。つまり何番と何番にかかわるですとか、あるいは番号は付せないけれども、やっぱり何となくこういうような実感するのだよねという、そういったことが実感というか、人間の心情というのはすごく複合的なものだと思うので、そういったこともあろうかな、とは今から予測しているところではあります。

かつ、やはり先ほど谷藤委員さんがおっしゃっていただいた、私もより気を引き締めてと思っていたのですけれども、これからはどういうふうに影響が出てくるかというのが、確かに今年よく分からなかったというのが今の非常に率直なところでもあるのです。影響は確実にあったと思うのだけれども、でもそれが今後どうということかは、やはりもう少し見ていかないと、確かに何とも言いにくいなと改めて感じたところです。すみません、また雑駁ですが、以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

続いては、同じ音なのですけれども、3文字目がちょっと早かった若菜委員から。

**○若菜千穂副部会長** 大変お疲れさまでした。最初から関わっているの、いろいろ言いたいこともあるのですけれども、センサスみたいにならずと取り続けていただく数字になってほしいという期待が1つあります。そのためには、ちょっとデータを取り過ぎかなというところがあって、どこかのタイミングで見直しをされる、これ自体の評価、見直しをされると思うのですけれども、そのときにやっぱり今後継続的に取っていくデータだから思い切って、あまりティー先生に御負担をかけなくても済むように、これだけ取ってこうというところにぜひ落としていただいて、ずっと続けていただきたいというのが1つです。

率直にその感想を言わせてもらおうと、この幸福指標の在り方というか、特性自体なのですけれども、いろんな事情があって、でも幸福感というのはこう変動しているよねという、そういうものだと思うので、では正直この幸福度の変動は何によるのだろうという、その分析自体がやっぱり無理があるのではないかなと。そういうものではなくて把握したい。そういうものは、政策評価でもいいわけですよ。だから、何かそこをどこかのタイミングで振り返るときに、勇気出してぜひちょっともう一回、この幸福指標でそもそも何を取りたかったのだっけというところを、やっぱり議論も戻っていただきたいなと。そうではないと、この分析の負担感で、結局ワークショップにしても調査にしても、一人一人の声を聞くけれども、「それって、だから何」になってしまいませんかという。そこと、全県の

人の数字を高めたときの幸福感1上がった、2上がったというのと、1人の人の意見は結びつくわけがないとか、そこの結びつきますよという証明は絶対しようがないと思うのですよね。だから、何となく統計の迷路にはまってしまっているような議論がされている、申し訳ないですけども、率直に。これからの期待を含めてしてしまして、一度振り返る、5年とかのタイミングで振り返るときには、ぜひそこまで戻っていただければなど。

そういう意味でも、そこを踏まえてでも、この幸福指標には、私はマスで取るデータだと思っているのです。だから、それを細かく分析することには限界があるだろうということが言いたいのですけれども、でもマスで取る数字にはやっぱり意味があるし、ぜひそこを改めて突き詰めていただきたいなという。だから、この変動の理由を1個1個分解して見ていっていると思うのですけれども、そうではないアプローチも何かどこかできたらいいのではないかなという。そうではないと、片手落ちではないかなという気はずっとしております。まずは、皆さんの御努力、御尽力に頭が下がる思いではおりました。大変お疲れさまでした。ありがとうございます。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

では、和川委員、お願いいたします。

**○和川央委員** ありがとうございます。まず、所感としましては大変だったろうなど、事務局の皆さんお疲れさまでした。僕はもともと分析屋なので、多分若菜委員と考え方は違っている部分はあるかなと思うのですが、私もこんなに難しいことをするはずだったかなという思いがあります。もっとシンプルに議論していくはずだったと思ったら、いつの間にか何かすごく分析量が増えてきたなという、そういう思いがあります。また、当初想定してきた分析が利かなかったりとか、当初の想定と現実が違っていたなという反省点もあるかなと思っして、そういった意味ではいつかのタイミングでやはり少し反省し、改善することがあってもいいのかなというのは私も感じているところです。

あと、コロナの関係については、今年やってみて非常に勉強になったなということと、今後やっぱりソーシャルキャピタルがじわじわと目に見えるか見えないかは、際どいあたりで効いていくのではないかなと。それは、実は高齢者とか、そういった方々に効いていくのではないかなという意味で、コロナについてはそこまで分析しますかとは言ったものの、コロナの設問とか分析は、それなりにやっぱり時間をかけて取る必要もあるのかなとは思っていますというのが2つ目。

あと、すみません、先ほどの質問、年次レポートの関係で質問したのですけれども、質問の趣旨ですが、毎年P D C Aを回すために今年次レポートを書いているのですが、4年後P D C A回すレポートまでやる必要がありますかねという意味で質問をしました。それだともっと大変だよね、そこまでしなくてもいいですよねというのを聞きたくて、さっきは質問したところです。年次レポートの話は、また来年の話なので、いずれちょっとその辺りもおいおい御検討いただけるといいかなと思っています。

以上です。

**○吉野英岐部会長** ありがとうございます。

委員の皆さんから一言、一通り御意見いただきました。最後になりますけれども、この幸福感に関する分析部会というのは、今は総合計画審議会の部会という位置づけになっておりますけれども、もともとは研究会という任意のというか、特にどこかについていたわけではなくて、やはり幸福をきちんと考えて、それを対象化して、分析できるような形に持っていけないかどうかというところから、もう4年、5年ぐらい前ですか、ちゃんと覚えていなくてすみません、結構長きにわたってやってきていると思います。いろんな都道府県さんで幸福については研究会を開いたり、あるいはスローガンに掲げたりというような都道府県さんがある中で、岩手県としては別にすぐに早く始めたということはないのですけれども、長くやっている感じはあるなという感じでありまして。一度やり出すと、岩手県はずっとやるといういい面も悪い面も両方ありますけれども、ぱっと飛びついてぱっと捨てるということはあまりしないという点は非常にそれはよくて、看板を書き換え続けていくようなことはどこにでもあるわけですけれども、あまりそうはしないで、やはり少し時間をかけていろんな意見を聞いたり、いろんな手法を使いながら幸福を創造的に分析して、県民の人々のお役に立っていくという意味では、ずっとこういった部会や研究会を設置して、こういう場を作ってくれていることについては県庁の方の方針に大変感謝しているところです。

また、委員の中にも、最初からずっといる人もいますので、いつ終わるのだと思っている人もいるかもしれませんが、幸福に終わりはないからねと言われそうなところがあって、なかなかここまでやったらもうオーケーというわけにもいかないのです、どうでは長いスパンの中にこれに乗せて、これは外せない項目としてきちんと計画や政策の中にしっかり入っているということまでできるところまではやるのだろうなと思っています。

あとは、こういったことをパブリシティというか、やっぱりもっともっと私は岩手県外にも訴えていくべきなのではないかなと思っています。和川さんもいろいろ文章書いてくれて、外へ発信、岩手銀行さんの例も経済研究所からレポートの中でちょっとスペースをもらうとかやってきましたけれども、岩手銀行さんだけではなくて、様々な媒体があると思うので、様々な媒体の中にこういった結果を出して、外の評価も、こういうことに意味があるのかどうかについても、我々はどうしても県内にいるので、意味があるからやっていると考えてしまいますけれども、竹村先生もおっしゃっているように外から見るとするのはやっぱりすごく大事なかなと思っています、私たちのところではなかなか見えにくいだけでも、外部の人から見るとこう見えるというような御意見もやっぱりぜひ知りたいですし、我々は、こういったプロジェクトがどう評価されるのかということも知りたいです。どうしてもPDCAで忙しくて、何か内側に内側に回ってしまうのですけれども、そればかりではなくて、いろいろなところでこういった私たちの、あるいは県庁のやっているやり方を広報するようにも引き続き力を入れていただけるとありがたいかなと思っています。知事さんは、理解がある方なので、知事さんの発信力を使って、部下がやるというのもいいと思いますけれども、広く。今SDGsが大変あちこちでシンポジウム等々ありますので、そこまで行けとは言いませんけれども、そういった形でこれをきちんと考えることがやっぱり政策にも大変大事だし、世の中にも役に立つというようなビジョンを評価の方でも立てていけるといいかなと思いました。

長くなってすみません。私からは以上です。

最後、評価課長がまとめてくださいますので、よろしくお願いいたします。

### 3 閉 会

**○高橋政策企画課評価課長** 長時間にわたりまして、ありがとうございました。今回で今年度の部会は終了となりますけれども、委員改選の時期ともなりますので、それにつきましては今後改めて御相談させていただきたいと思えます。

先ほど所感もいただきましたけれども、今年度本当に大変な分析の部分をしていただき、こういった形でレポートをまとめていただいたということで、本当に感謝を申し上げたいと思っております。引き続きよろしくお願いいたしますと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、本日の部会を終了いたします。お疲れさまでした。